

定例会会議録 第 8 回 災害ボランティア・コーディネーター浜北・天竜地区

日時：平成20年1月20日10～15時

会 場 浜松市天竜区山東 やまゆり荘 はつらつの部屋 進行：立石 記録：伊藤学 校正：野本

参加者（敬称略）〔下線は社協職員〕

浜北区役所：大城

浜北区：栗田（西美蘭） 田坂（根堅） 中谷（豊保） 鈴木（於呂）
三室（尾野） 富田（根堅） 野本（小林）

天竜区役所：和田、木下

天竜区：武田（佐久間） 伊藤（横山）

東区：立石（勤務：天竜地区センター）

1. 挨拶
2. 自己紹介
3. ほのぼのコンロづくり
【ミニ体験】ほのぼのコンロづくり



ほのぼのコンロでご飯を炊こう！！



4. これまでの振り返り

期 日	定例会	会 場	内 容
平成19年	2月23日	第1回	天竜：老人憩の家やまゆり荘
	5月25日	第2回	天竜：老人憩の家やまゆり荘
	7月20日	第3回	浜北：高齢者ふれあい福祉センター
	8月22日	第4回	天竜：老人憩の家やまゆり荘
	9月 1日	第5回	浜北：高齢者ふれあい福祉センター
	10月19日	第6回	天竜：老人憩の家やまゆり荘
	11月10日 11日	第7回	浜北：高齢者ふれあい福祉センター 天竜：老人憩の家やまゆり荘
平成20年	1月20日	第8回	天竜：老人憩の家やまゆり荘

次回開催日程 3月12日（水）

時間 19：00 から

会場（高齢者ふれあい福祉センター）

定例会会議録 第8回 災害ボランティア・コーディネーター浜北・天竜地区

日時：平成20年1月20日10～15時

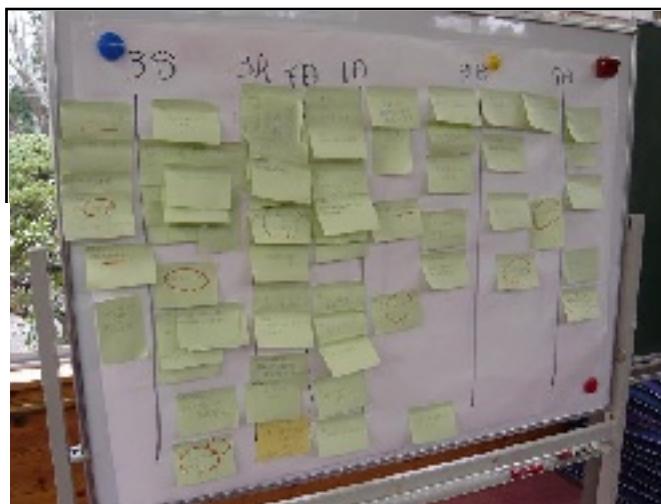
会場 浜松市天竜区山東 やまゆり荘 はつらつの部屋 進行：立石 記録：伊藤学 校正：野本

5. マニュアルづくり

1) 個人マニュアルの想定

自宅での被災（東海地震）

自分の行動パターンの検証

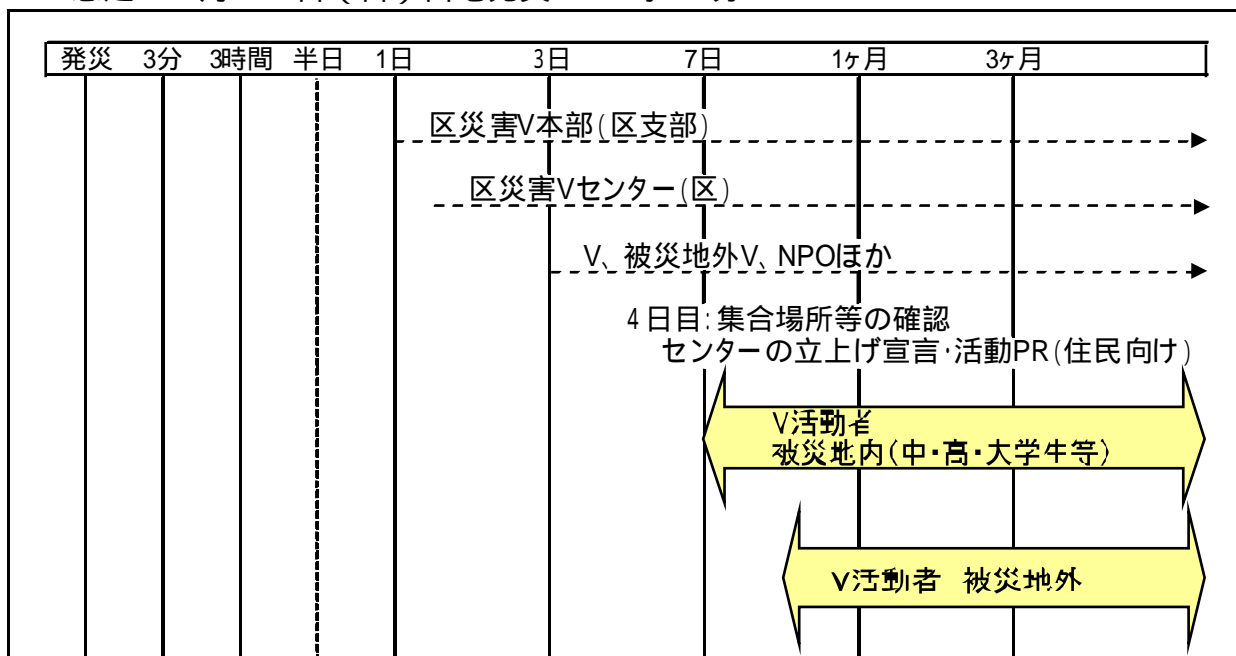


- ・ 3分：自身の安全確保、避難の動線を考える、避難袋を持つ、ラジオ等で情報収集
- ・ 3時間：近所の救出救助活動、安否確認、自分の生活場所確保
- ・ 1日：水の確保、自宅避難を始める
- ・ 3日：避難所に向かう、自宅の片付けを始める
- ・ 7日：避難所の炊き出しを手伝う

会社・職場に出勤したとき、家族・地域で自分が“しないといけない”、“したいこと”
＝ボランティア活動「ニーズ」となる。 特別なことではない、人間の欲求

2) 発災シミュレーション

想定：1月20日（日）自宅発災 11時24分



活動メニューの提示...活動者に対して

- ・ 住民意識 自分がこうしてほしい ボランティア（福祉）ニーズになる
- ・ ニーズの気づき ニーズは自分で考え出せる
- ・ ニーズは被災者、避難者がつくる 外部ボラが作るわけではない

定例会会議録 第8回 災害ボランティア・コーディネーター浜北・天竜地区

日時：平成20年1月20日10～15時

会場 浜松市天竜区山東 やまゆり荘 はつらつの部屋 進行：立石 記録：伊藤学 校正：野本

- ・困っている人を見つける方法 見守りあい、心配りなど

開設時期

- ・センター開設の判断 設置 閉鎖（仮設住宅入居完了）
形を変えた継続活動（仮設支援、地域復旧・復興、仮設撤去）

・地震：発災3日協議、5日目立上げ ・水害：発災1日目協議、3日目立上げ
運営体制

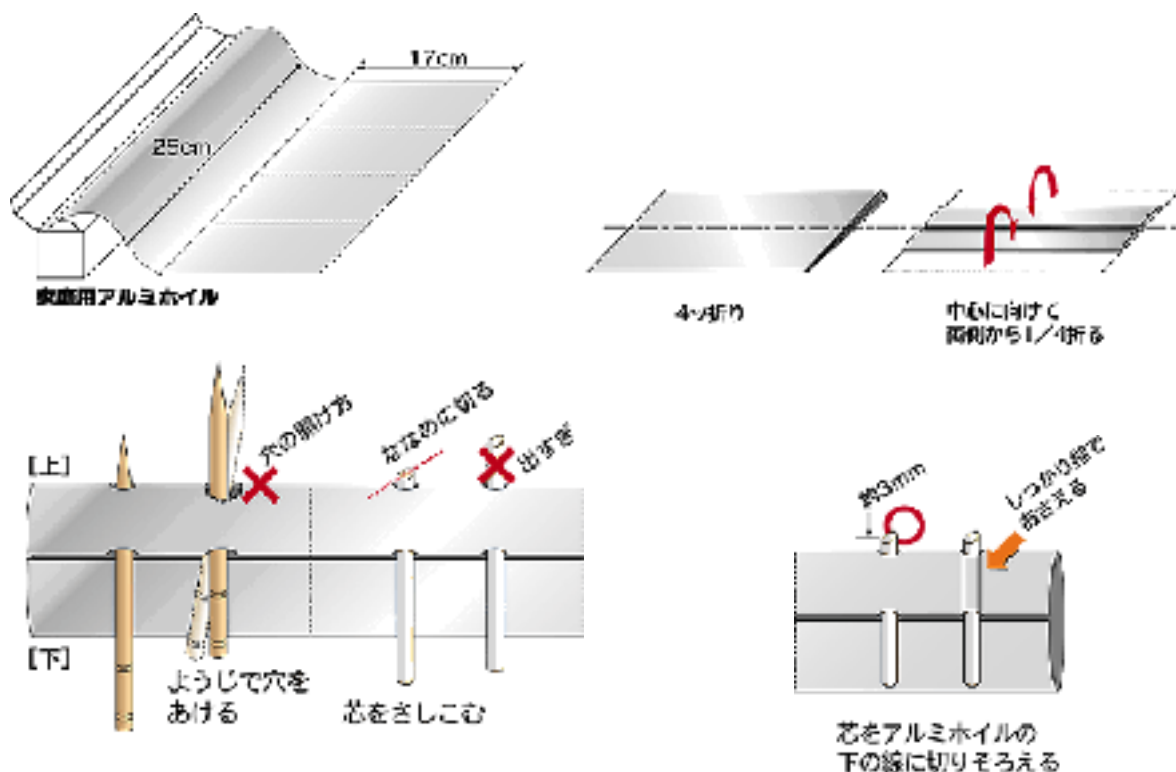
- ・コーディネーターの人員 呼び集める方法、人材づくりの場が必要
- ・人口1,000人に対し1人（目安） 地域との橋渡しができる人
- ・養成講座修了者、民生委員児童委員、防災委員 平時の育成活動
- ・市職員 立上げ・運営初期 報道対応
天竜区のケース（交通規制が多い） 県外ボランティアバスの先導役
- ・社協職員 ボランティア保険 資金管理 全体コーディネート 地域福祉へ
- ・全国的な活動団体・コーディネーター 受け入れ体制、環境整備、顔が見える関係
- ・県外ボランティア 宿泊場所のあっせん（パチンコ店、大型ショッピングセンター駐車場）

運営協議体

- ・自治会（自主防災会） 教育機関、福祉・病院施設・当事者団体、商工会議所・JC、日赤奉仕団、ボーイ・ガールスカウト、労働組合など = 幅広いニーズへ
- ・いろいろな団体と情報連絡が取れるよう日常から顔が見える関係をつくる。
年2回程度の連絡会や学習会で「場」づくりが必要。

資料：【ほのぼの灯り】応用編 手作りアルミ缶コンロ

作業時は手袋を着用：缶の切り口でケガをしないようにご注意ください！



芯は、2枚組ティッシュを剥がし、手で丸めてつくります。

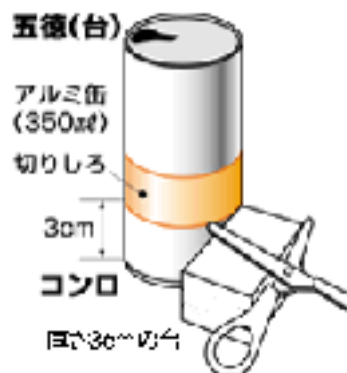
定例会会議録 第8回 災害ボランティア・デイナー・浜北・天竜地区

日時：平成20年1月20日10～15時

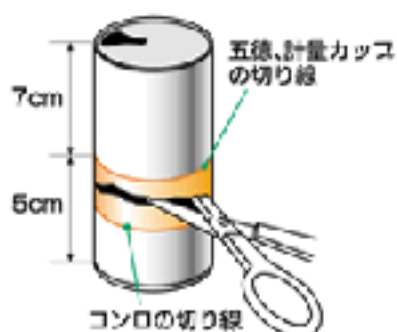
会場 浜松市天竜区山東 やまゆり荘 はつらつの部屋 進行：立石 記録：伊藤学 校正：野本

今回は、高さの異なる空き缶を利用したので、五徳・コンロづくりは省略しました。

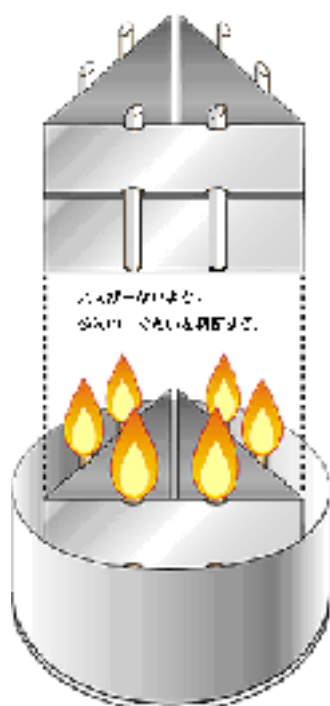
切り線の目印のキズをつける



上と下を切りはなす



切り取り線にそって切る
缶の切る面を左側に向けて持つ。

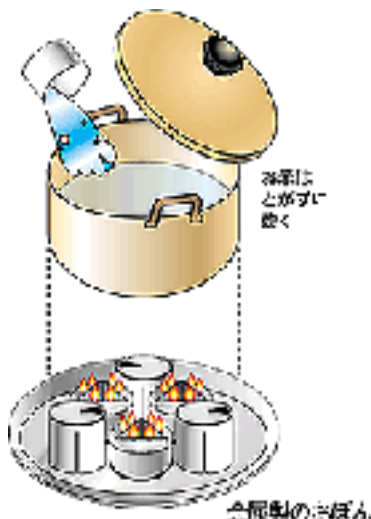


コンロの火は5つずつ

3人分のご飯を炊く時の例



燃料は、天ぷら油。
(中古でも可)

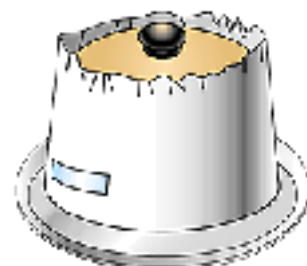
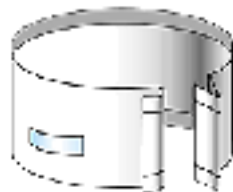


金属製のさばん



蓋をきってセロハンテープを両面から貼る。

ナベ一器より大きめに。



40分でご飯が炊けます。

財団法人 市民防災研究所 <http://www.sbk.or.jp/top.html> HPより
高さが異なる空き缶を利用してもできます。) C O O Pさば缶、シーチキンの缶
非常用持ち出し品の中に、お父さんが飲むビール(アルミ缶)を忍ばせては。
災害時には興奮・緊張の連続、一息つくことも生き伸びていく大切な術です。
物資が不足していたらその場にある空き缶を活用する知恵を共有しましょう！